

2022 年度

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091400517		
法人名	社会福祉法人 桜花会		
事業所名	ライフケアしかた	ユニット名	くるみ北
所在地	福岡市早良区四箇6丁目12番41号		
自己評価作成日	2023年2月10日	評価結果市町村受理日	2023年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2023年3月3日	評価確定日	2023年3月13日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は令和4年7月に開設した2ユニット（定員18名）のグループホームです。建物の前に四箇中央公園があり、自然豊かな環境の中、お散歩をするのが日課となっている方が多数いらっしゃいます。医療面では複合型の利点を活かし、法人内の看護師によるラウンドやかかりつけ医療機関の受診の付き添い、夜間も連絡が取れるオンコール体制があり、介護職も相談がしやすく安心して生活を提供することができます。入居者様の意欲を引き出すことを大事に、時間や回数に捉われない入浴、好きなタイミングでのレクリエーションや外気浴を可能な限り行っています。プライベートの時間を大切にしながらも自然と入居者様がリビングに集まってくる、そのような居心地の良い空間作りを今後も継続して行っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「ライフケアしかた」は特別養護老人ホームとの複合施設である。1階の事務所の職員も全員介護経験があり、面会者の対応や受診送迎などを担い、複合施設全体で協力体制が作られている。2022年7月の開設にあたり、系列のグループホーム大手門から職員の異動が行われ、管理者を含めて馴染みの職員が開設準備を担ってこられた。新採用の職員の中から主任を抜擢し、管理者と共に新たなチーム作りに努めてこられ、ユニット名である「くるみ」も職員が提案した名前である。ホームの玄関から左右に「くるみ北館」「くるみ南館」の2つのユニットがあり、入居者からも「わぁ綺麗ね」などの感想が聞かれている。開設から8カ月が経過し、新しい環境で、新しい入居者の方々を精一杯ケアしてこられているが、今後もチーム力を強化し、法人理念の1つ目にある「個人の尊厳を重んじ優しい笑顔と暖かい手を持って全人間的運営を行う」の理解と実践に繋げていく予定である。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>法人の理念については職員の目が触れるところに掲示し共有を図るようにしている。理念を踏まえた内部研修を年間計画にも位置付け実施するようにしており、日頃のケアにも繋げていくようにしている。</p>	<p>4つの法人理念と、「ライフケアしかた」の3つの運営方針を職員の通用口に掲示している。運営方針は「住むところ」「笑むところ」「活きるところ」であり、更に詳細な説明が書かれている。入職前に法人の理念を読み、就職を決めた方もおられ、開設後も主任から職員に「入居者も職員も1人1人違う」ことを伝え、認知症の理解とケアの在り方の意見交換を続けている。</p>	<p>今後も法人理念・運営方針を職員全員で共有し、日々実践に繋げていける方法を模索すると共に、入居者・職員共にお互いを尊重し、指摘を受けたことを有難く受け止められるチーム作りを続けていく予定である。</p>
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>近隣の小学校の運動会見物や地域の餅つき大会に参加し、少ないながらも交流の機会を設けている。また散歩中には近隣住民の方への挨拶を欠かさず行っている。</p>	<p>新館開設に向けて、理事長と施設長が地域の方々にご挨拶を行った。「ライフケアしかた」の本館で地域交流が行われていた経緯もあり、子供110番の役割を担い、小学校から運動会のお誘いがあり、町内会長様から地域の餅つきのお声かけを頂くなど、開設早々から入居者の方々も地域交流ができています。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議（書面会議）において事業所内で行った認知症ケアの勉強会の資料を添付した。今後は実際に事業所内にお招きし勉強会を行っていく予定である。</p>		
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>現在書面報告というかたちで行っており、事故報告や活動報告等させて頂いている。運営推進委員の方やご家族から頂いたご意見はスタッフ間で共有するようにしている。</p>	<p>運営推進会議の参加者の方々にご挨拶に伺ったり、お電話でご意見を頂く方法を取り、議事録の送付時は返信用封筒を同封している。議事録の書面の文字は大きく、読みやすい工夫をしており、今後も写真等を増やす予定である。運営状況（行事等）や内部研修（認知症）の内容、事故・ヒヤリハット報告を続けており、今後もホームでの開催を検討すると共に、参加者のご意見をホーム運営に活かしていく予定である。</p>	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して事業所の実情やサービス内容を報告している。疑問点等あれば担当者の方を訪問して尋ねたりメールで確認したりしている。	開設に向けて施設長が市役所と連絡調整を続けてこられた。開設後は管理者が主になり、福岡市本庁にコロナ禍での運営推進会議の開催の仕方や夜勤体制について等、疑問点を確認したり、メールで相談している。地域包括の職員からも入居の相談を受け、個別に対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で年2回身体拘束に関する研修を行うと共に施設全体の身体拘束廃止に関する内部研修に参加し、正しく理解していくよう努めている。委員会が出た内容はグループホーム会議にて伝達している。	開設以来「虐待の種類や具体例の説明等」の内部研修を行っている。研修レポートも提出し、日々の振り返りに繋げている。入居間もない方ばかりで、ご本人の行動や思いに寄り添った個別ケアを目指しており、帰宅願望が強い方に対し、どこまでの行動を自由にして頂くのかなどを個別に検討している。職員個々の言動は主任が適宜注意すると共に、他の職員からの情報提供を基に改善策の検討を続けている。	法人全体で身体拘束を禁止している。身体拘束廃止委員会で情報共有に努めているが、今後も日々起きている事象を正確に報告し、対策を検討すると共に、日々の職員の言動が威圧的な態度になっていないか、尊厳を傷つけるような言い回しになっていないかを真摯に振り返り、法人理念の「個人の尊厳を重んじ優しい笑顔と暖かい手を持って…」の理解と実践に活かしていく予定である。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての内部研修も年間2回施設全体で行うようにしており防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての勉強会は今後計画を立て実施していく予定である。入居者個々の必要性については契約時等に管理者等が確認するようにしている。	成年後見制度及び日常生活自立支援事業の利用状況等の内部研修を行い、職員の理解を深めている。管理者や主任が入居者個々の制度の必要性を確認し、アドバイスをしている。適宜、必要な窓口を紹介できる体制ができています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等は質問や疑問がないか都度確認するようにしている。医療面に関しては看護師から説明を行い理解・納得して頂けるよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において意見を頂くようにしているが、面会時や電話を通してこまめに心配事がないか等確認するようにしている。	2022年7月に開設し、入居に向けて居室の見学等をして頂いた。コロナ禍において「面会、外出を不可とする判断基準を教えてください」等のご意見もあり、電話で説明すると共に、運営推進会議の報告書にも記載させて頂いた。感染状況に応じて面会が不可の場合は、窓越し面会やオンライン面会で対応したり、ご本人のスマホで写真を撮り、家族に送信している。今後も通信等の作成を検討し、暮らしぶりを報告していく予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のグループホーム会議において個々の発言を引き出すようにしている。また、役職者との面談を随時行い、意見や提案を聞き出している。日頃のコミュニケーションにおいても同様。	オープニングスタッフとして、系列のグループホーム大手門から異動してきた管理者やスタッフが複数勤務し、新採用のスタッフと共に各入居者のケアの在り方などを検討してこられた。職員個々の経験や考え方を把握し、チームとしての在り方を模索し続けており、日々生じる課題に向き合い、改善に向けた検討を続けている。今後も最適なケアが行える方法を法人全体で検討していく予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を行い、その後に面談を行う等、各自が向上心を持って働けるよう努めている。昇給制度あり。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢等の制限は設けていない。職員については希望休を考慮したり、資格取得に向けての環境整備を行う等配慮している。必要に応じて異動も行っている。	応募時に「グループホームで働きたい」と言う希望の方も多く、施設長が主に面接している。施設部長や管理者が同席する場合もあり、資格の有無や年齢、性別を問わず、笑顔や話し方等の第一印象を大事に採用している。採用後も職員個々の特技（壁面飾り作り等の手作業、レクリエーション技術等）を活かしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	グループホーム会議において、人権尊重の意識付けを行っている。内部研修においても不適切なケアが存在しないか、個々に振り返ってもらうようにしている。	施設長と部長が入職時に理念の説明を含めたオリエンテーションをしている。日々のケアでは主任が中心になり、職員の言葉遣いを注意し、日々のケアで気になる事を全体会議で伝えている。役職者の会議で、リーダーのあるべき姿勢を施設長が伝え、他の職員に伝達している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や苦手とする分野を把握しながら内外の研修を受ける機会を確保している。費用は施設負担としており、勤務扱いでの参加とされている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等を通して他の事業所の職員と意見交換を行っている。今後は他の事業所への訪問等も積極的に行っていく予定。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階においては特に留意し、ゆったりとした雰囲気でお困りごと等確認するようにしている。必要に応じて紐解きシートやセンサー方式を用いてニーズを抽出している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との関係づくりにおいても同様に要望等に耳を傾けながら信頼関係を築いていけるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に必要に応じて他職種からアドバイスをしてもらう等、他のサービス利用を含めた対応を行っていくよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	若手スタッフが知らない事や歌を入居者に教えてもらう等役割をもって生活していただくようにしている。家事活動においても主体性を尊重しながら支え合える関係づくりを行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族としての役割が途切れないようケアプランにも位置付けながら共に支え合える関係を築いている。面会が不可の場合は窓越しやオンライン面会で対応する等している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方が訪ねて来られたケースもあった。その際には関係性を把握しながら、現在のご様子をお伝えしたり、以前のお話を伺ったりしている。コロナが落ち着いている時期には自宅に帰られることもあった。	管理者と計画作成担当者が自宅訪問し、生活状況を把握している。センター方式の記入を家族にお願いする場合もあり、ご本人にも生活歴を教えて頂いている。入居前からお付き合いのあった方（教会関係者）が訪ねて来られたり、お電話をしてこられたケースもあり、法事に参加できた方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル配置や座席等は相性等を考慮し、適宜見直しを行っている。フロアで孤立してしまわれることがないように見守り、声掛け、橋渡しを行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設から日が浅い為、契約終了の事例は少ないが、今後は別事業所等への移動等も考えられる為、可能な限り面会に伺う等これまでの関係性を大事にしていく予定である。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひもときシートを活用して、ご本人の視点で思いや困りごとを探ることもある。その他日頃から行動については選択して決めて頂く等、意向を尋ねながらケアに当たっている。	日々の生活の中でご本人の思いを伺うように努めてこられた。ご本人が食べたいものや好きなもの等を家族が持参して下さったり、訪問販売で購入して頂いている。ケアプランの24時間シートに、ご本人の「意向・好み」を詳細に記入するように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の記入をご家族へ依頼することもあり、サービス利用前の状況把握に努めている。ご本人からもこれまでの暮らしについて意識的に聞き出すよう努め、現在の生活に反映させている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないであろうという先入観を持たず、可能な限り取り組める環境を整え過介護とならない生活を目指している。入浴については同じ時間や回数ではなく、体調や意向を確認しケアをしている。		

自己	外部		自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン立案時、ご本人、ご家族より意向を伺い、可能であれば原案をご本人に見ていただき同意を得たり意見を伺ったりして作成している。	ケアチェック表を活用し、ご本人ができること、必要な介助、介助が必要な理由等を分析し、ケア内容に繋げている。個々のケアの留意点もケアチェック表に記入し、計画に記載している。掃除・血洗い・体操・散歩を含めて計画に盛り込み、24時間シートも活用し、「意向・好み」「自分でできること」「サポートが必要な事」を詳細に記載している。計画作成担当者とは職種（介護職、看護職、管理者、栄養士等）を含めた担当チームで検討が行われている。	①今後もケアチェック表の「5」身体機能（ADL）の有する能力を「備考」欄などに詳細に残し、機能訓練指導員等と相談しながら日々のリハビリや体操等の計画に繋げていく予定である。 ②今後もセンター方式の記入を家族に依頼し、サービス利用前の状況把握に努めると共に、家族と介護計画の話し合いを行い、ケアプランの必要性を家族と共有していきたいと考えている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の気持ちが前向きになったことや、声掛けの工夫により応じられた内容等ケア記録に残すことで情報共有している。			
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入浴時間等規則的な時間の流れに捉われず、○○したいと希望すれば実現できるよう努めている。			
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍に開設したこともあり、まだまだ協働とまでは言えないが、地域行事に参加したり、訪問販売で嗜好品を購入してもらう等、社会との関わりを継続していくよう努めている。			
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に沿う形で医療を受けていただいている。現在は全員が協力病院がかかりつけ医となっており、急変時の迅速な対応や薬の処方等スムーズな体制が出来ている。	朝夕、系列施設の看護師がホームを訪問し、入居者の情報共有をしている。複合施設の事務所の職員（介護職）が受診送迎し、看護師も同席し、主治医から指示を受けている。受診結果（検査結果等）は看護師から家族に報告し、日頃の健康状態は主任が報告している。体調変化等は系列病院に24時間相談でき、受診時は家族に同席して頂く場合もある。管理栄養士との連携もあり、食事が低下した際の指示を受けている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝夕、職場内の看護師によるラウンドがあり、相談をしたり情報共有を図るようにしている。看護師と連携しながら健康管理に努め、必要な受診は迅速に行えるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入院の際にはご家族や病院関係者との情報交換、相談を随時行い、出来るだけ早期退院となるよう支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、医療行為が必要となった場合の説明を看護師により行い、意向を確認するようにしている。意向確認は一年毎に行い、必要時には再度確認をとるようにしている。	開設から日が浅く、今後ホームで看取りケアまで行うかを検討していく予定である。同じ建物内に特養があり、24時間の医療連携が受けられ、ご希望に応じて転居できる体制はできている。受診時は系列の看護師が同席しており、今後も急変時の医療行為や終末期に関する意向確認を行う予定にしている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はマニュアル化している。心肺蘇生法やAEDの操作法は内外の研修を通して技術を習得するよう努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内での避難訓練には入居者様にも参加していただき、夜間想定で1名のスタッフが誘導する等、実際の場면을想像しやすいようにしている。消火設備の確認も行っている。	複合施設であり、施設全体で8人の夜勤者が勤務している。2022年10月19日、特養と合同で初の避難訓練（夜間想定）を行い、入居者も一緒に避難が行われた。北館は廊下の真ん中にテーブルがあるが、廊下の両端に避難ドアがあり、今後もより安全な避難方法の検討を行う予定である。災害に備えて白飯（アルファ化米）やお粥、ビーフカレー、みそ汁（即席）、飲料水12L×25箱、長期保存用野菜ジュース120本等を準備しており、災害時は施設の1階に3名まで地域の方が宿泊可能である。同法人内の施設のBCP（事業継続計画）を参考に、業務内容や応援体制の検討を続けている。	



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇面については会議等を通して指導したり、直接面談を行って注意をすることもある。敬語で話すことを基本とし、否定的な言葉掛けをしないよう気を付けている。	「介護をしてあげる」ではなく、その人の生活に職員が入り込んでいることを意識したケアに努めている。洗濯物を畳む際、下着類は自分の持ち物を畳んでもらったり、排泄ケアの際はトイレのドアを閉めたり、必要時は同性介助をしている。職員によって意識の差があり、面談や会議などで意識付けを続けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択ができるような質問をすることが多い。お一人お一人に合わせて質問の仕方を変えたり、表情の変化から汲み取る場面もある。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせた生活が出来るよう、タイムスケジュールや活動への参加を無理強いしないよう心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服が同じようなものにならないよう声掛けをしたり、肌の手入れを行う等支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に関してはおやつ作りを中心に行っているが、今後は炊飯等少しずつ内容を深めていく予定である。	特養の厨房で3食作り、1人ずつ配膳したものが運ばれてくる。ホームの中は入居者が配膳車を押し、お茶淹れ・汁物をつく・蓋取り・献立の読み上げ・下膳・食器洗い・テーブル拭き等をして下さる。おやつ作りを行う時もあり、食材の買い出しから一緒に行い、べっこう飴やパンプキンケーキと一緒に作り、フルーツのカット等もして下さる。3月5日からホームで炊飯を始めており、今後も様子を見ながら調理等を行っていく予定にしている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や嚥下状態に合わせた形態、量で提供するようにしている。好きな時や飲みたい時にお茶が淹れられるようポットを準備し、少ない量でもこまめに摂れるよう支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台にて口腔ケアを行っている。訪問歯科の指導を受けながら、磨き方が不十分な場合はスタッフが介入している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意を感じにくくなっておられるのか、トイレの場所がわかりにくいのか等アセスメントを行いながら自立に向けた支援を行っている。	管理者の希望でユニット毎に4つのトイレを造ることができた。「だれでもトイレ」もあり、中は広く造られている。入居時から排泄パターンを把握し、布の下着を着用して排泄が自立している方もおられる。必要な方は事前誘導しており、失禁の原因を探し、検討を続けている。夜間のパッド着用が無くなり、就寝後にトイレに2～3回行かれるようになった方もおられる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には乳製品等の水分摂取を促したり、散歩やマッサージを行う等下剤のみに頼らないケアを心掛けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日固定を希望される方にはそれに合わせた対応をし、それ以外の方は固定しないようにしている。午前に気乗りされない場合は午後に対応する等柔軟に行うようにしている。	湯船は3方向から出入りできる。手すりも複数あり、全員の方が湯船に浸かれている。入浴習慣や希望を伺い、固形石鹸が使われる方もおられ、入浴日を固定せず、希望に応じて入浴されている。ゆっくり入浴したい方は脱衣所で職員が待機したり、冬至の日は職員の人員体制を整え、18時30分から柚子湯を楽しんで頂き、安眠して頂くことができた。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転傾向には配慮しつつ、ご本人の生活習慣や体調に応じた休息がとれるよう環境整備を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効等がすぐに確認出来るよう薬の情報をファイリングしている。薬の変更があった場合は体調の変化をケア記録に残し、看護師とも連携が図れるようにしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から把握した得意なことや出来ること、楽しめることを生活の中に取り入れるようにしている。入居時からのアセスメントを行い、継続した支援を行うよう努めている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り希望時に散歩に出掛けられるよう支援している。近場への散歩やドライブ等事業所側からの提案が多いが、家族と一緒に遠方に出掛けられたケースもあった。	移動販売（とくし丸）を利用し、好きなお菓子を買われている。自宅近くまでドライブしたり、スーパーでの買物、糸島のコスモス見学、曲淵ダムの紅葉見学、城南区の菊池神社、西区の飯森神社にお連れしている。近くの公園で地域の方がゲートボール等をされており、今後も外出の機会を増やしていく予定である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の意向で財布を所持されている方もいらっしゃる。食材の買い出しの際に入居者様に直接支払いをお願いしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族の希望時には電話やライン等を使用できるように支援している。携帯電話を所有されている方に対し操作方法をお伝えすることも多い。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面や玄関にレクリエーション等で作成した季節にあった飾りつけを施している。空間では不快な音が多くなるよう入居者様同士の会話が始まった際にはテレビを消音にする等配慮している。	北館と南館で共有空間の造りが異なるが、台所とフロアは一体化し、テーブルの配置も職員間で検討しながら決めてこられた。北館は廊下も活用してテーブルをレイアウトしており、歩行器で廊下を行き来する際は職員が誘導する方もおられる。床はクッション素材で、廊下は長く、歩行運動等も十分にでき、フロアに湿度計を設置し、体感だけに頼らず数字で確認している。行事の写真や手作りのカレンダーを目のつく所に貼っている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席位置に決まりはなく、入居者様同士の関係性を見ながら別の位置に誘導を行う場合もある。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真立て等の小物から、馴染みの家具までご本人らしい生活空間となるようお好みのものを持ち込んでいただいている。	各居室に洗面台があり、タンスと電動ベッド等を備え付けている。開設時に居室の見学をして頂き、希望の居室を選んで頂いた。入居時に馴染みの物を持参して頂くようお願いし、家族写真やご自分で書かれた書物（掛け軸）、テレビ台、ラジオ、時計、日めくりカレンダー等を持ち込まれている。北棟は透明ガラスが多く、公園が見える部屋もある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には表札をつけ、出来る限り迷われることのないよう支援している。居室内は動線の妨げにならないよう家具を配置する等安全にも配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				